

自治研修あきた

発行 平成26年12月

発行者 秋田県自治研修所

TEL 018(873)7100

No.70

派遣研修レポート ～自治大学校第一部課程第123期研修～

(自治大学校での派遣研修に参加している職員から、研修レポートをいただきました。)

秋田県自治研修所 主査 柿崎 幸

自治大学校での研修で殊に強く感じるのは、地方自治は動いている、というダイナミズム、そしてそれを研修生に響かせる、巧みな手法と言葉の力を持つ講師陣の多彩さです。このライブ感はここでしか味わえない、まさに一期一会です。

例えば「民法」。このストーリーの舞台に登場できる資格は誰にあるのか？そんな切り口から権利義務の主体についての説明が始まります。「行政法」では、時代が行政手続法に要求したものとは？と、時勢を踏まえ、法律の真意に謎解きのように迫っていきます。「公共政策の基礎」のキーワードは「漠（漠然とした）構造の政策課題を一手間かけて明（明確な）構造に」。エクセル機能を相棒にする講師手作りのEラーニング教材はピカールで、難しい政策課題をも定量値に置き換えてしまおうとする思考が芽生えます。そして「公共サービス&公有資産改革」で示される、実務の場で駆使する知恵比べに負けず劣らぬ多彩な手法は、一聞の価値ありです。

県庁に勤めて20年近くを経た今だから見えてくること、受け止められること、じっくり考えられることが、ここには多くあります。課題も多い毎日ですが、休日には全国各地から集まった仲間が地元を巡るツアーを企画し、刺激にも事欠かきません。

是非、後輩の皆さんにもこの環境を味わい、糧にしてほしいと思います。

秋田県自治研修所 主査 今野 武俊



自治大学校は東京都の西、立川市にあります。新宿から中央線（快速）で40分ほど、中央線、南武線、青梅線が交差する西側の拠点都市で、晴れた日には西の彼方に富士山を拝むことができます。幸いなことに、寮の私の部屋は西向きですので、晴れた日には目覚めとともに富士山を拝んでいます。

研修内容は多岐にわたり、科目は演習も含めると65科目もあります。中でも特徴的な科目は政策立案研究です。研修生4～5人でグループを作り、テーマを決め、5か月間をかけて政策提言を行うものです。私のグループは、スポーツツーリズムの推進をテーマにスポーツを核とした地域振興の研究を始めています。

全国から研修生が集まっているので、毎日のように酒が酌み交わされ、寮の各階の談話室には各出身地域の名物・名酒が並んでいます。食文化の違いにも驚かされますが、各地の「本物」の味わいを紙面でご紹介できないのが本当に残念です。



研修終了時にどのような自分になっているのか、今は想像できませんが、送り出していただいた皆様の期待に応えられるよう、頑張りたいと思っています。

～研修ルポ～

政策テーマ別研修

県・市町村が直面する行政課題に的確に対応できる能力の向上を図ることを目的に、平成26年度から実施した新研修「政策テーマ別研修」についてご紹介します。

平成26年度実施メニュー

- 地域資源を活用した観光振興（7月24日～25日実施）
- 住民が支え合う地域づくり（7月31日実施）
- 地域ブランディング（8月8日実施）
- 農林水産業の6次産業化（8月26日～27日実施）
- 地域経済の望ましい未来を築く産業振興（9月8日～9日実施）
- 住民との協働によるまちづくり（11月28日実施）



○ 地域資源を活用した観光振興

＜第2期ふるさと秋田元気創造プランで掲げる施策「ビジネスとして継続・成長していく総合戦略産業としての観光の推進」をテーマに、研修を実施しました。＞



なんと、研修テキストがない！この研修では、受講者が持ち寄った地域の生データを教材とし、全員が様々な角度から語り合い、段階を踏んで解決策を考えていきました。感覚・経験・思い込みから脱却！地域と資源とお客様の関係を、滞在時間・消費単価等でデータ分析し、「誰が」「どのように行うのか」を議論を通じて導き出す、解決策立案について学びました。

- 受講者の声**
- 「これまで感覚的に携わってきたことを実感し、目標設定やデータ分析による取組を見直す機会となった」
 - 「議論し考えを共有することで、自分にはない視点に気づいた」
 - 「事例に生の数字を使ったことで、真剣に討議できた」

～講師はこんな人～

特定非営利活動法人グローバルキャンパス 理事長 大社 充先生

地域づくりに役立つプログラム開発や自然・歴史文化を活かした集客のための素材開発の分野で活動しています。地域創生に政府が一体となって取り組むために設置された、内閣総理大臣を議長とする「まち・ひと・しごと創生会議」の議員でもあります。

課題解決のためのヒントや、実践に裏打ちされた事例が満載の、講師の引き出しから次々と出されるヒントに、議論の中身が濃く変化し、解決に達していく過程は鮮やかです！

○ 農林水産業の6次産業化

＜第2期ふるさと秋田元気創造プランで掲げる施策「付加価値と雇用を生み出す6次産業化の推進」をテーマに、研修を実施しました。＞

「食と農で秋田を元気に！」をキーワードに、

- ・農林水産物の付加価値を上げる
- ・人と物の交流を増やす
- ・地域の雇用を創出する

ための考え方や手法を、講師自らの活動や全国各地で指導した事例を基にした講義と、マーケティングをベースにしたビジネスプラン作成演習で修得しました。



受講者の声

「実際の活動に基づいた講義で6次産業化の理解が深まった」

「漠然とした不安を抱えている農家の方にアドバイスするヒントを得た」

「講師の講義の進め方や受講者との接し方がとても良かった」

～講師はこんな人～

特定非営利活動法人農商工連携サポートセンター 代表理事 大塚 洋一郎先生

科学技術庁に入庁後、同庁国際課長、文部科学省宇宙開発利用課長などを経て、平成19年7月から経済産業省大臣官房審議官（地域活性化担当）として農商工等連携促進法の制定・運用に携わりました。平成21年7月、農商工連携・6次産業化による地域活性化・雇用創出にライフワークとして取り組むことを決意し、早期退職をしてNPO法人を設立。現在、代表理事として6次産業化、都市農村交流、都会のマルシェ販売、特産品開発に取り組んでいます。

○ 地域経済の望ましい未来を築く産業振興

＜第2期ふるさと秋田元気創造プランで掲げる施策「企業の経営基盤の強化と地域産業の振興」をテーマに研修を実施しました。＞

地域経済の現状を正しく把握するための手法を学び、地域にとって望ましい未来を目指すために何をすべきかを考えました。成長性が高い地元企業を選んで育てる「エコノミックガーデニング」の取組を参考に、産学公民金の人材をつなぐネットワーク構築の必要性を理解し、地域企業支援を通じた産業振興策の立案手法を学ぶ内容でした。

受講者の声

「袋小路に入る前の早めの対策、地域の実状に応じた対策の必要性を感じた」

「基本的なことを多く気づかされた。実際に行動に移すことを心がけたい」

「企業支援のためのネットワーク構築を常に意識していきたい」



～講師はこんな人～

拓殖大学政経学部経済学科長 山本 尚史教授

「地域経済の活性化」を主な研究テーマとし、アメリカで始まった地域経済再生策「エコノミックガーデニング」の、日本における第一人者です。平成16年から平成22年まで国際教養大学で教鞭を執られ、秋田県と縁の深い先生の間人味あふれる語り口で進められる講義は、わかりやすいと受講者からも好評です。

住民が支え合う 地域づくり

(ねらい)

「少子高齢化社会において、地域社会（コミュニティ）活性化のための手法を学ぶ」



(講師)

(学) 法政大学法学部
名和田 是彦教授

(内容)

コミュニティ制度とコミュニティ政策を概観し、地域社会を構成している者（アクター）について、その特徴と働きかけ方を学び、講師が関わるまちづくり活動事例から、地域コミュニティ活性化のための具体的な手法を修得しました。

地域ブランディング

(ねらい)

「地域の人々も元気になる、地域資源を活用した『地域ブランド』創出の手法を学ぶ」



(講師)

(株) ビズデザイン
代表取締役 木村 乃先生

(内容)

地域をブランディング（活性化）するために、「何が必要か」「どういう視点で何を一番大事にするか」を考え、地域の人々も元気になる「地域ブランド」を作り出す、真に価値のあるシティプロモーションの手法を学びました。

住民との協働による まちづくり

(ねらい)

「地域を構成する多様な主体と協働し、地域課題を解決する手法を学ぶ」



(講師)

(学) 産業能率大学
総合研究所
兼任講師 松元 一明先生

(内容)

人口減少や少子高齢化といった社会の変化から、地域を構成する多様な主体との協働が今後ますます求められます。この研修では、全国各地の先進事例を学びながら、協働による課題解決のために、何が必要かを理解し、実践できるようになることを目指しました。

編集後記

自治研修あきたNO.70をお届けします。

平成26年度から実施した政策テーマ別研修を中心に取り上げましたが、いかがでしたでしょうか。雪が舞い落ちる季節となり、研修所にも極寒の冬がやってきます。そして、研修所では、来年度の研修に向けての企画・検討が本格的に始まります。研修の場が皆さんにとって、より一層深い気づきの場となるように・・・来年度の研修も、どうぞご期待ください。 (教務班 渡辺)